

【一般口演4】 第14席 聴宮穴の灸で耳鳴りが改善した症例

愛媛 上郷 樹夫 山岡 傳一郎 後藤 英行 若林 秀治

【はじめに】

この症例は穴位反応によって聴宮穴を取穴して耳鳴りに有効であったが、retrospective に検討すると『明堂経』の聴宮穴穴位主治条文上の耳鳴、眩、仆の3症候存在が時系列チャート上にとらえられていたので報告する。

【症例】

上〇四〇 70才男性 職業 アパート管理人

〈初診〉平成9年2月25日

〈主訴〉耳鳴り、頭頸肩の著しい凝り感

〈現病歴〉40才時、頭頸肩の凝り感発症。H8年3月（69才時）夜間トイレに行く途中めまい（眩）で倒れる（仆）。H8年11月、右耳鳴り、頭重、イライラ、気分の落ち込み発症。

【結果】

この症例は、主訴であった穴位反応によって聴宮穴を取穴したところ有効であった。代田文誌著の『鍼灸治療の実際』によると耳周囲で耳鳴りに有効とされる穴位は、翳風、聴宮、耳門が取られている。この3穴について『明堂』を比較するとこの症例の場合、聴宮穴は「耳鳴」「眩」「仆」の3症候が一致していた。耳門穴は「耳鳴」の1症候だけが一致している。翳風穴についてはいずれも一致している点なかった。穴位主治症からの選穴でも聴宮穴が適切であることが確認された。即ち、今後 prospective study が耳鳴り症例で可能であることを示唆している点に興味がひかれた。

【考察】

『足臂十一脈灸経』によれば、三焦経は耳脈とされている点から他の三焦経穴位の反応についての検討も欲しかったと思われる。（遠位取穴という意味で）